

カメラスケッチ



このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにかかけます。お気軽にご連絡ください。



まちづくり政策課政策調整係 ☎ 4 8 2 - 2 9 1 3 (課直通)

1月21日

アトサプリの噴火に備えて 硫黄山レストハウスを緊急避難場所に指定



ヘルメット保管庫を視察

町と弟子屈町振興公社は1月21日、アトサプリー(硫黄山)噴火時に同社が経営する硫黄山レストハウスを緊急避難場所とし、避難者の安全を確保する協力協定を結びました。昨年9月末の御嶽山噴火を受け、アトサプリーが突然噴火した際、観光客などの安全を確保するために締結したものの。役場内で協定を交わした後、徳永町長と同社の吉備津民夫代表取締役・土屋博専務取締役らがレストハウス地下室を訪れ、ヘルメットの保管庫と避難者の控室などを視察しました。徳永町長は「協力に感謝する」、吉備津代表取締役は「安心して観光に来てほしい」と話していました。

2月7日

英語や異文化に触れながら冬の自然を満喫 小・中学生向け体験活動「もりのパレット探検隊」



スノーシューで雪の森へ

町内の小・中学生を対象にした、川湯エコミュージアムセンター主催の自然体験活動「もりのパレット探検隊」の第2回が2月7日に行われました。今年度は「英語や異文化にふれあう」「日本と世界の自然の違いを知る」がテーマです。この日は小学1年～中学1年の13人が参加。子どもたちは、ボランティアで同行した外国語指導助手のウィリアムとアカエゾマツの森の中をスノーシュー(西洋かんじき)で歩きました。他にも英語を使ったレクリエーションやスノーキャンドル作りを体験。外国の冬についても教えてもらい、日本と全く違う景色に驚く様子が見られました。

2月6日

品質の良い摩周そば栽培への取り組みを評価 弟子屈町4Hクラブが全道大会で優秀賞



授賞を報告するメンバー

農業青年で組織する弟子屈町4Hクラブ(猪狩大輔会長)の皆さんが、1月29・30の両日に札幌市で開催された平成26年度北海道青年農業者会議におけるプロジェクト発表(土地利用型作物部門)で優秀賞に輝き、2月6日に役場で受賞を報告しました。今年のテーマは「SOBA～青さへ挑む男達～」。高品質な摩周そばの安定生産を目的に、摩周そばの特徴で消費者からもニーズがある実の青さと生産性を考えた作付け計画を研究をしたこと、生産組合の皆さんからも担い手として認められたことなどが評価され、今回の受賞となりました。

1月27日

長年にわたり地方自治の発展に貢献 池上清子さんが北海道社会貢献賞受賞



表彰状を手にする池上さん

元町議会議員の池上清子さん(81歳・跡佐登)が、平成26年度北海道社会貢献賞(自治功労)を受賞しました。伝達式は1月27日に行われ、徳永町長から池上さんに表彰状が手渡されました。同賞は、長年にわたって地方自治の発展に功績があった方に、北海道知事から贈られるもの。池上さんは1995年に初当選以来、2012年まで17年にわたり町議会議員として本町の振興と発展に大きく貢献したとして、今回の受賞となりました。

1月21日

これまでの調査結果を報告 屈斜路湖底調査から見た地震・火山の活動



熱心に聴き入る参加者

北海道立総合研究機構地質研究所・北海道大学・北見工業大学による「屈斜路湖底調査から見てきた地震・火山の活動」報告会が1月21日、町公民館で行われ、防災関係者など約100人が集まりました。同研究所・北大では、2009年から共同で屈斜路カルデラの地形地質や地下構造の調査をしています。昨年9月、北見工大とも連携して行った調査で判明した、本町の地震と活火山、昭和13年の屈斜路地震の際の津波の原因、屈斜路湖底の堆積物の状況などが報告されました。本町一帯はひずみが多く、アトサプリーの地下数10キロにはマグマエネルギーの蓄積があるとの話に、参加者は防災への意識を新たにしていました。

2月10日

思い思いの色を重ねて 幼稚園児が創作紙芝居と巨大絵画制作楽しむ



紙芝居に夢中の子もたち

てしかが現代創作民話「こぐまのきょうだいキン・タン・ト」の紙芝居初上演と、動く巨大絵画制作が2月10日、社会老人福祉センターで行われ、摩周丘幼稚園の園児など約30人が参加しました。てしかがえこまち推進協議会主催の第4回てしかが極寒アートフェスティバルの一環で弟子屈ロータリークラブとの共催事業。昨年11月、園児が色を塗った紙芝居が完成し、尺八や琴などの生演奏とともに披露されました。その後、紙芝居の世界を現した可動式の木板に色を塗りました。完成した動く巨大絵画は後日、道の駅摩周温泉に展示されます。

2月10日

交通安全に気をつけて 交通安全協会が園児に夜光反射材を寄贈



摩周丘幼稚園での贈呈式

弟子屈町交通安全協会(村岡幸雄会長)では2月10日、摩周丘幼稚園児とおひさま保育園、川湯保育園、奥春別森の保育園の園児に、ディズニーのキャラクターをデザインした夜光反射材ストラップを贈りました。子どもたちの交通安全のためにと毎年、啓発品を贈っています。同協会では、今後も続けていきたいとしています。

2月3日

みんなの心の中にある鬼をやっつけよう おひさま保育園で節分の豆まき



年長さんの攻撃に鬼もたじたじ

おひさま保育園(清水節子園長)で2月3日、節分の豆まきが行われました。初めに、先生から節分や鬼についてのお話を聞きました。その後、豆まきの歌を終えたところで、キツネの妖怪がたたく太鼓の音とともに、3匹の鬼が登場。泣いて逃げる子や果敢に豆を投げる子などさまざまでしたが、どうにか鬼を退治して安心でした。

2月12日

地域の歴史に思いをはせる 和琴の歴史を語る会を開催



興味深い話を次々と披露

和琴の歴史を語る会が2月12日、屈斜路研修センターで開かれました。介護予防教室「和琴転ばん教室」の活動として行われ、教室参加者でもある地域の80代の男性5人が、先祖から聞いたことや幼少期を振り返りました。渡邊昇さん(82歳)が「電気が通るまではランプ生活。不便でも人が大勢いて楽しかった」と話すと、大関實さん(85歳)も「地区ごとに祭りがあって賑やかだった」と応じました。最年長の野下銀藏さん(89歳)は「屈斜路湖が見渡せるこの地で生きられてよかった。美しい景色をいつまでも残していってほしい」と締めくくりました。

2月22日

摩周湖外輪山をスノーシューで散策 川湯エコミュージアムセンターの自然ふれあい行事



ガイドの説明を聞きながら

川湯エコミュージアムセンター主催の自然ふれあい行事「阿寒国立公園指定80周年記念・摩周湖外輪山スノーシューウォーク」が2月22日に行われました。初心者から経験者まで13人が参加。摩周湖第1展望台を起点として、左右に広がるカルデラを望むルートで実施されました。第3展望台方面では、輝く樹氷や眼下に飛ぶオジロワシ、オオワシを観察したり、立ち枯れたダケカンパを見ながら歩きました。摩周岳登山道方面では、カラマツが並ぶ防風林の中で、スノーソー(雪用のこぎり)やスコップといった道具の使い方を体験。冬ならではの活動を楽しみました。

2月2日

火の大切さやエネルギーについて学ぶ LPガス協会釧路支部が弟子屈小学校で講座



声援を受けて火おこしに挑戦

北海道LPガス協会釧路支部の皆さんが2月4日、弟子屈小学校(阿部典子校長)5年生に「ファイヤー探検記『炎の出前教室』」を行いました。人間と火との関わりや、エネルギーと環境問題について理解を深めてもらおうと、同支部が2013年から釧路管内の小学校で行っているもの。同校では2回目です。この日は同支部員のほか同支部弟子屈分会の会員など11人が来校。人間が火と関わってきた歴史や、同支部が行う防災についての取り組みなどを説明しました。その後、児童は火おこしに挑戦し、火のある生活のありがたみを実感していました。